

# 農業開発・農村開発



\*SDGsの17の目標のうち、関連の強いものを表しています。

## 持続可能かつ包摂的な農業・水産業を通じた食料安全保障への貢献

### 課題の概要

食料生産は気象や病害虫などの自然環境、農産物や農業生産資材の価格変動などの社会的環境の影響を受けます。生産・流通などの各体制が脆弱な開発途上国では、これらの影響が食料危機に直結し、都市貧困層や農漁村部の零細農家・漁業者に大きな打撃を与えます。一方、農漁業は食料供給を担うと同時に世界の就業人口の3割（南アジアでは4割以上、サブサハラ・アフリカでは5割以上）を占める最大の産業であり<sup>※1</sup>、開発途上国の貧困層の雇用と収入を支えています。

開発途上国と世界の食料需要を満たすため、開発途上国の小規模農家・漁業者の生産性と所得の向上を図る必要があります。持続可能な営農や漁法の導入、優良品種の普及、農漁業の基盤整備、農水産物の高付加価値化、食の安全・安心などの手段の強化、農家・漁業者がこれらの手段を利用しやすくする金融や保険の整備など、包摂的な農漁村社会の構築が課題です。

食料安全保障の面では8億人以上の人々が十分な食料・栄養を得られず、地域間格差も極めて大きい状況です<sup>※2</sup>。気候変動による自然災害は、こうした状況に拍車をかけており、農業の強靱性の強化が必要です。また、食料需要の増加による地力収奪や乱獲、畜産物の需要増に伴う家畜疾病の流行、持続可能な水産資源管理・利用の確立も喫緊の課題です。

### JICAの取り組み

食料安全保障の強化には、持続可能な開発目標（SDGs）の各目標を相互に関連させる取り組みが不可欠です。SDGsの目標2「飢餓をゼロに」への貢献に向け、他の目標との連携による協力効果の最大化を目指します。

具体的な取り組みは以下のとおりです。

#### 1. 経済成長に向けて

食料の安定供給と生産者の所得向上実現のため、農業基盤整備や営農技術の改善を通じた農業の生産性向上と、農産物の製造・加工、流通、消費に至るフードバリューチェーン（FVC）全体の強化に向けた協力を実施しています。東南アジアで農産物の安全性強化や高付加価値化への支援を進めるとともに、アフリカや中南米においてもFVC強化を通じた食料安全保障に向け調査を行いま



インドネシア：クリスタルグアバの栽培を学ぶ農家グループ（官民協力による農産物流通システム改善プロジェクト）

した。

加えて、ケニア政府と協力して開発した「小規模農家による市場志向型農業を振興するための普及アプローチ（SHEP<sup>※3</sup>）」をアフリカ、中南米、南アジア、中東の33カ国で展開中です。2019年度は約6,300人の行政官・普及員と約6.6万人の小規模農家にSHEP研修を実施しました。また、より多くの農家が、普及員による現地研修や営農指導をはじめとした質の高い普及サービスを受けられるよう、国際農業開発基金や世界銀行と連携して事業展開を行っているSHEP実施国もあります。さらに、2019年8月に横浜で開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD7）では、開発途上国の小規模農家の生計向上を目指す「SHEPを通じた小規模農家100万人のより良い暮らしを目指す共同宣言」を発表しました。

#### 2. 栄養改善を通じた人間中心の開発

JICAが主導する「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA<sup>※4</sup>）」では、生活改善運動など日本の経験も活用し、各国の国別戦略の策定支援や農業を通じた栄養改善につながる活動を実施中です。

また、こうした経験を踏まえ、2019年のTICAD7の際に、アフリカの2億人の子どもの栄養改善に向け、IFNAの取り組みを全アフリカに拡大する「IFNA横浜宣言2019」が採択されました。さらに、世界最大の栄養不

※1 World Bank, World Development Indicators: Employment in agriculture (% of total employment) (modeled ILO estimate), data retrieved in March 1, 2020.

※2 Food and Agriculture Organization of the United Nations "2019 The State of Food Security and Nutrition in the World"

※3 Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion

※4 Initiative for Food and Nutrition Security in Africa

良人口を抱える南アジア地域に対し、栄養改善のための支援を2019年度から開始しました。

### 3. 地球規模課題への対応

#### ① アフリカ稲作振興のための共同体(CARD<sup>※5</sup>)への協力

2008年に発足したCARDは「サブサハラ・アフリカのコメ生産を10年間で倍増する」目標を達成しました。しかし、アフリカのコメ需給ギャップは依然大きく、各国からさらなる生産増に向けて協力継続の要請がありました。

このため、2030年までを目標に、気候変動を踏まえた安定的な生産促進や品質向上、民間企業との連携を通じたコメ産業育成によってさらなるコメ生産の倍増を目指すCARD2に協力しています。

#### ② 気候変動に対する強靱性の強化

干ばつなどの被害が多い地域において農業の強靱性を高めるため、灌漑施設の開発や水利組合の育成による水の有効利用、耐乾性品種の開発・普及、日本や開発途上国の損害保険会社との協力による迅速な保険金支払いを行う天候インデックス型保険の導入などの協力を実施中です。

#### ③ 持続可能な水産資源の管理と利用

西アフリカやカリブ島沿岸における水産資源管理



ベトナム：在来ブタの体長測定をするカウンターパート(ベトナム在来ブタ資源の遺伝子バンクの設立と多様性維持が可能な持続的生産システムの構築プロジェクト)

の手段として、コマネジメント(共同資源管理)についての技術協力を実施しています。また、大洋州地域では衛星などを利用した違法・無報告・無規制(IUU)漁業の監視・抑止に関する協力を行っています。

#### ④ 畜産・家畜衛生

東・中央アジア、南アジア、アフリカを中心に、国際基準に則った獣医教育システムの構築や、国際機関との連携により、世界的にまん延する家畜疾病の対策、畜産フードバリューチェーンの構築支援を展開中です。

※5 Coalition for African Rice Development

※6 International Food Policy Research Institute "2016 Global Nutrition Report"

## マダガスカル 食と栄養改善プロジェクト

### 農業を通じた栄養改善を多くの関係者と共に



この日はキャッサバ(芋の一種)のスープ。「給食があるとうれしい」と、学校に行くきっかけにもなる

マダガスカルでは、5歳未満児の発育阻害の比率が49%と世界で5番目に高い水準にあり<sup>※6</sup>、栄養不良が深刻な課題です。

JICAは、「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)」の活動の一環として、2019年3月から農業を通じた栄養改善に向けたプロジェクトを実施しています。住民の8割が農業を営む中央高地において、農家の所得向上の方法を探り、増えた所得を栄養価の高い食物の購入に充ててもらふことや、家庭菜園で栄養価の高い作物を育て、食

事の栄養バランスを改善することを目指して、JICA専門家が現地で活動中です。

一方、栄養改善には、保健や農業、水・衛生といった複数の分野からのアプローチが重要であるため、プロジェクトでは、マダガスカルの国家栄養局、農業省、保健省をはじめ、多くの機関と連携し、マルチセクターでの支援を展開しています。特に、妊産婦と子どもの栄養改善や健康増進に取り組んでいる世界銀行とは、対象地域を重ねて協力しています。